令和2年度 学校評価計画書

石川県立飯田高等学校

重点目標		具体的取組		主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
1	確かな学力の醸成のために主体的な学びを通して、思考力・判断力・表現力を育成する。	①	教員の授業改善と生徒の進路意識の向上を図る。	各教科 各学年 進路指導課	昨年度、学習到達度を測る1月模擬試験(英数国3教科総合)の結果は、1・2学年全体で偏差値60以上の生徒の割合が20%であった。	【成果指標】 1・2学年の1月模擬試験で、英数国3教科総合の偏差値 60以上の生徒の割合が10%、55以上が20%、50以上が50%を目指す。(学年毎)	1・2学年それぞれで目標基準を A:すべて達成した B:2つ達成した C:1つ達成した D:達成できなかった	C以下の場合は学年会、教科で指導体制を検討する。	模擬試験の結果で評価
		②	進路実現可能な学力を身に付けるために自立的学習習慣を定着させる。	各学年 進路指導課	学年＋1時間の学習時間を推奨している。1・2年ともに学習時間増加への取組意欲は高い。	【成果指標】 予習・復習を習慣化させ、授業外学習時間が充実している。(学年毎)	進路アンケートで授業外学習時間を確認し、学年＋1時間を達成している生徒の割合が A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	C以下の場合は学年会・教科で指導体制を検討する。	進路アンケートで評価
		③	公務員志望者が幅広い知識と、情報処理能力を身につけ、実際の公務員試験に対応できる力を育成する。	各教科 進路指導課	個別分野で弱点を持つ生徒が見られる。個人の強みと弱みを明確にし、弱点を克服させながら学力の底上げを図る必要がある。	【成果指標】 公務員模擬試験の総合判定で、Bランク以上の生徒の割合が40%以上を目指す。	公務員試験直前の模擬試験においてBランク以上の生徒の割合が A:60%以上 B:40%以上 C:30%以上 D:30%未満	C以下の場合は進路及び、各教科で取組を検討する。	公務員模擬試験結果で評価
		④	研究授業、互見授業により、探究的な学習活動や主体的な学びを推進して、思考力を育成する。	教務課	昨年度は研究授業等が多く実施されたため、平均5回／年を達成したが、個人差が大きく、年齢や教科の枠を超えた学校全体の取組とはいえなかった。	【努力指標】 研究授業や互見授業、中学校との連携事業に積極的に取り組んでいる。 【満足度指標】 授業を通じて学力(思考力)が身についてきていると実感できる。	授業改善への取組に年間を通じて参加した回数が A:5回以上 B:4回 C:3回 D:3回未満 授業改善アンケート項目⑥「この授業で学力がつく」⑩「友人と意見を共有することにより理解を深めることができる」のAB評価が A:90%以上 B:80%～90%未満 C:70%～80%未満 D:70%未満	C以下の場合は取組を見直す。	授業参観票の提出及びアンケートで評価 生徒による授業改善アンケート(年2回実施)で評価

石川県立飯田高等学校

重点目標		具体的取組		主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
2	人間関係力を育成することにより、円滑な社会生活を送る資質を養い、人間力を向上させる。	①	普通科・総合学科の生徒が合同で1つの研究テーマを設定し、互いに協力しながら探究活動を行い、学びに対する前向きな心を育む。	ゆめかな担当 総合学科	昨年度からのゆめかな（総合的な学習の時間・総合的な探究の時間）学習には、普通科生徒だけでなく総合学科生徒も加わっている。今年度もその形態を維持し、学科を越えた学び合いの時間のなかで、学ぶことに対する積極的な価値を見出させたい。	【満足度指標】 普通科・総合学科それぞれの生徒がともに学ぶことで「ゆめかな」の時間が有意義なものになったか自己評価の状況により評価する。	普通科・総合学科合同のゆめかなの時間に対して、生徒の満足度が A:80%以上　B:70%以上 C:60%以上　D:50%未満	C以下の場合は取組を見直す。	生徒による評価アンケート（11月・2月）で評価
		②	私たちの暮らす地域の現状と課題への理解や未知なるものを求める知的な勇敢さの獲得を目指した学習を通して、3年間の探究活動の基礎をつくる。	ゆめかな担当	探究学習で最も重要なテーマ設定のために十分な時間と考える機会が与えられておらず、学習活動が不活発となるケースが多い。1年次では身の周りにあるさまざまな素材に触れ、知性と感性を磨き豊かな感性を育むような学習を取り入れていきたい。	【成果指標】 活動を通して個々が持つ興味関心を発見し、2年次以降の活動の目標がたてられたか（自分のやってみたいこと、したいことを主張できるようになったか）を評価する。	ゆめかなの活動を通して2年次以降の活動目標がたてられた生徒が、 A:80%以上　B:70%以上 C:60%以上　D:50%未満	C以下の場合は取組を見直す。	生徒による評価アンケート（2月）で評価
		③	HR活動や委員会活動を通して、集団づくりや人間関係づくりを進め人間関係力を育てる。	生徒指導課 全職員	生徒会が中心となり、学校行事は充実しつつあるが、各種委員会や生徒全体で十分な意見を交わし、取り組む余地がある。人間関係力を高めることにより、生徒が互いに尊重し合う心の涵養につなげていきたい。	【成果指標】 生徒間で十分な意見交換を行い組織的に取り組むことができている。	校内の活動で、十分な意見交換や協働した取組が日常的に達成できたと考える生徒の割合が A:80%以上　B:70%以上 C:60%以上　D:60%未満	C以下の場合、指導方法を見直す。	年2回（7月・1月）の生徒アンケートで評価
		④	携帯電話・スマートフォンの使用ルール遵守と1日の使用時間を削減する指導を進める。	生徒指導課 全職員	携帯・スマートフォンの使用が家庭学習時間を奪っている現状があり、昨年度の1人あたりの1日の使用時間は約80分であった。使用時間は30分以内とし、家庭学習の時間を十分に確保させたい。	【成果指標】 家庭学習に影響の少ないような、携帯・スマートフォンの適正な使用ができている。	生徒1人あたりの携帯・スマートフォンの学習以外の1日平均使用時間が A:30分以内　B:40分以内 C:50分以内　D:50分より長い	C以下の場合、指導方法を見直す。	年5回の生徒アンケートで評価
		⑤	時間厳守の習慣の確立を目指し、「遅刻0運動」を継続する。	生徒指導課 全職員	授業開始のチャイムで授業を開始することは定着しているが、朝の「遅刻0」の日数は昨年度55日であった。目標を大きく下回った。学校生活のあらゆる場面で時間を守る習慣を定着させたい。	【成果指標】 時間を守る習慣が定着し、朝の遅刻が０になる。	「遅刻0の日数」が、「年間授業日数」に対して、 A:85%以上　B:75%以上 C:65%以上　D:65%未満	C以下の場合、指導方法を見直す。	生活委員による毎週末の遅刻集計により評価
		⑥	挨拶や服装・交通マナーなど基本的な生活習慣の定着について指導を徹底する。	生徒指導課 全職員	朝の挨拶運動や登校時の指導により挨拶ができる生徒の割合は高い。服装や頭髪で指導を受ける生徒は減少傾向にある。主体的な生活習慣を身に付けさせたい。	【成果指標】 集団生活における規律を遵守し、挨拶運動により人間関係力が向上している。	日常的に挨拶ができ、規則を守ることができた生徒の割合が A:85%以上　B:70%以上 C:60%以上　D:60%未満	C以下の場合、指導方法を見直す。	年2回（7月・1月）の生徒アンケートで評価

石川県立飯田高等学校

重点目標		具体的取組		主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
3	地域社会や地元中学校と連携した取組により、探究力・社会力を育成する。	①	「ゆめかな」の活動を地域の方をはじめ多くの方に認知して頂き、発表会への参加者を増やす。	総務課	活動は5年目を迎え、少しずつ認知はして頂いているが、年2回の発表会の地域の方々の参加は少なく、運営側の工夫が必要である。	【努力指標】 「ゆめかな発表会」の広報活動の強化を図り、保護者や地域の方々の参加者増を目指す。	年2回行われる「ゆめかな」発表会の参加者が前年に比べて A:150%以上　B:120%以上 C:110%以上　D:100%以下	C以下の場合は取組を見直す。	11月・2月の発表会後の生徒アンケートで評価
		②	各教科の授業や探究学習において地元小・中学校との接続・連携を図る。	各教科 ゆめかな担当	英語科で市内小・中学校との連携事業を行っているものの、他教科での授業や取組においては校種を越えた関わりがあまり見られず、地域で唯一の高等学校としての立場を充分に活かしきれていない。小・中・高の幅広い子どもたちが協働的に主体的に学び合える場づくりは、本校に課せられた使命の一つである。	【努力指標】 地元小学校・中学校と連携した学びの場・時間を創出する。	地元小学生・中学生と高校生がともに学んだ回数が、 A:20回以上　B:15回以上 C:10回以上　D: 5回未満	C以下の場合は取組を見直す。	
		③	地元への愛着心を涵養し、地元産業に貢献する意欲を持った人材を育成する企業見学会、講演会を実施する。	進路指導課 総合学科	地元企業に対する知識が不足しているため、地元就職を希望する生徒はあまり多くない。また、進学後地元就職を希望する生徒も少ない。	【成果指標】 企業見学会、講演会等により、地元に就職することについて理解を深め、地元に貢献する意欲が以前より高まった。	企業見学会、講演会等により、地元に就職することについて理解を深め、以前より地元に貢献する意欲が高まったと答えた生徒の割合が A:80%以上　B:70%以上 C:60%以上　D:60%未満	C以下の場合、指導方法を見直す。	年2回(7月・1月)の生徒アンケートで評価
		④	「産学官地域連携人材育成事業」と、地域学などにおいて地域と連携した授業展開をすすめ、地域愛を育てる。	総合学科	狼煙地区を中心とした「産学官地域連携人材育成事業」は本年で3年目となる。これまではイベントの開催と禄剛埼灯台観光ガイドだけであったが、今後は地域学などの授業を利用して活動内容を広げ学習に取り組む。	【成果指標】 各種活動を通して学習した内容により地域を理解し、地域のニーズを発見し、地域に貢献することができた。	半期ごとにアンケートを実施し、授業開始前と比べて、地域の理解と貢献度が、向上した生徒の割合が A:80%以上　B:70%以上 C:60%以上　D:60%未満	C以下の場合は取組を見直す。	10月・2月(1月)の生徒アンケートで評価
		⑤	生徒会活動や部活動ごとに、地域行事におけるボランティア活動や、小中学校と合同練習会などを積極的に行い、地域社会に貢献できる人材を育てる。	生徒会	本校では、部活動単位でのボランティア活動を推奨しており、いくつかの部活動では、地域行事などに参加し地域貢献を行っている。 今後は地域における活動だけではなく、校下の中学校と連携し合同練習などを行い、異年齢との交流を通して技術指導や指導力など社会力を育成する。	【努力指標】 生徒会活動や部活動を通して地域や中学校との連携を図りながら地域に貢献できる活動ができた。	年間を通して地域貢献に参加した生徒の延べ人数の割合が A:100%以上　B:80%以上 C: 60%以上　D:60%未満	C以下の場合は取組を見直す。	1月末までの人数を集計し評価

石川県立飯田高等学校

重点目標		具体的取組		主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
4	効率的な業務や指導法の改善により、ワークライフバランスを実現する。	①	会議や校内研修を効率化することにより、生徒と向かい合う時間を確保する。	全分掌	会議の精選や時間短縮に取り組んでいる。今まで以上に効率よく効果的な運営を行うために、資料作成内容・方法に加えて、会議時間を意識して協議する必要がある。	【成果指標】 会議の内容について、主担当が所要時間を設定し、その時間内での終了達成度を評価とする。	事前に設定した時間内に会議が終了した割合が A:90%以上　B:80%以上 C:70%以上　D:70%未満	C以下の場合、評価結果を分析し、方策を検討する。	
		③	会議や校内研修を効率化することにより、生徒と向かい合う時間を確保する。	全分掌	現状、会議資料のほとんどは、紙媒体でおこなっており、資料印刷・配布の時間も相当の時間を要している。また、大量のコピー用紙を消費しており、環境への配慮もこれを機に考えたい。	【努力指標】 校内で行われる様々な会議について、資料のペーパーレス化が行われた回数で評価する。	校内で行われた会議のうち、新たにペーパーレス化された会議の数が A:15回以上　B:10回以上 C:　5回以上　D:　5回未満	C以下の場合、評価結果を分析し、方策を検討する。	すでにペーパーレス化が行われている会議は評価対象外とする。
		④	可能な限りアンケートを電子媒体で行い、効率的な業務改善を推進する。	総務課	通常、生徒・保護者・評価委員の方々へのアンケートは紙媒体で行っており、印刷・集計・グラフ化はかなりの時間を要する作業であり、さらなる効率化を目指すためにアンケートの電子化をおこなう。	【努力指標】 校内・地域・保護者対象のアンケートについて、電子化アンケートを実施した回数で評価する。	校内で行われたアンケートのうち、電子化されたアンケートの数が A:15回以上　B:10回以上 C:　5回以上　D:　5回未満	C以下の場合、評価結果を分析し、方策を検討する。	
		⑤	業務改善に取り組んでいることを地域や保護者の方々に周知し理解を図る。	総務課	定時退校日、部活動休養日、リフレッシュウィーク、学校閉庁日など教員の多忙化改善の取組について、地域や保護者の方々に知られていない。	【努力指標】 地域や保護者の方々に対して、教員の多忙化改善の取組について説明する機会を設定する。	地域や保護者の方々に対して、教員の多忙化改善の取組について周知した回数が A:5回以上　B:3回以上 C:1回以上　D:0回	C以下の場合、方策を検討する。	